

# 光を入れ多様な生物と共生

環境に配慮し、森が適切に管理されていると認める「FSC認証制度」。世界約七十九国に及ぶ国際的な認証を、日本でいち早く取得したのが三重県南部、海山町の速水林業だ。代表の速水亨さん(55)は「新しい発想がなければ、林業経営が良くなるわけはない」と言う。どんな森づくりなのだろう。訪ねてみた。(鈴木 久美子)

## 三重県海山町・速水林業の森

百年生のヒノキが大風によつたりと揺れた。直径約四十センチ、高さ約二十六メートル。樹間は広く、足元にシタ類がはえ、シイやカシなど広葉樹も茂る。小枝や葉がさざめいて森全体がザワザワ鳴った。「肝心なのは光の管理です。光を入れれば、下草や低木が茂り、多様な生き物がすみ暮るようになる」。約千センチを所有し、うち約八百センチがヒノキの人工林。間伐は多めにし、皆伐時も周囲の植生を残しておく。速水さんが根元を掘り返すと、フワフワの腐葉土がしばらく続く。二十センチ掘ってやっこ。地面に着いた。

速水さんは、創業二百年を超える速水林業の九代目。「光を入れる」森づくりは戦後、父親の勉まへんが始めた。地元尾鷲地域では当時、ヒノキの苗を密植し、間伐を繰り返す手法が一般的。先進的な試みは、「単純な植生は、数世代後に土壌をやせさせるのでは」と心配したことだった。

FSC認証を取得したのは二〇〇〇年。「資源

## 日本でいち早く「FSC認証」



## 新しい発想で経営改善



「森に来てください」と話す速水亨さん＝三重県海山町で

の持続性」や「従業員のけをもとに行われてきた。評価」を数値で評価する。データとして次世代。評価点が上がった。ただ、仕組みが新鮮に映った。に残す科学的なシステム。二年以内に面積の5%。「日本の森づくりは、がない」。製品に付く認を、生産のために生(職人の)過去の経験だ。証マークは、消費者への態保全林に設定する」と

な木製品も作って販売。「木材を直接買いたい」という依頼が増えた。多面的な販売につながった。思います」だが、すぐに経営が上向くわけではない。木材価格の低迷で、年間売り上げは約一億六千万円で、最盛期より一億数千万円減。コスト削減のため、作業内容を根本的に洗い直している。従業員の労働意欲につながる給料保証も課題だ。「美しい森をつくった過去の技術はすばらしく、私もさつう森をつくりたい。だが、昨日ま

アピールにもなる。

いう条件は付いた。

英文の審査基準を取り寄せてみると、速水さん

その後、認証を一般の

ら森づくりとそう違わなかつた。評価機関のアメリカ人を森に案内し、従来の丸太以外に、ながら、約一週間の審査

で同じ事をしている生き残れないでしょう。森の見学会なども続けられている。年間約四千人が訪れる。とかく閉鎖的な山の世界では珍しい。昨春は、山の資産管理やコ

FSCは「Forest Stewardship Council」(森林管理協議会)。

環境団体や先住民団体、企業など約七十カ国に会員がいる民間の非営利組

で森林育成を支援する目的。審査は、第三者の調査専門会社などが、環境と経済性、社会性の観点から約二百項目をチェックする。認証を受けた業

それぞれ六百八十二件、画し文書化する点が新しい。五百六十一件。日本では、条件付きで認証を受け、十九件(約二十万杉)と、毎年の監査でチェックされ改善しているところも多し」と話す。

## FSC 環境など200項目をチェック

織。一九九三年に発足し、本部はドイツのボン。

者らの木材や製品にはFSCマークが付く。

認証は、山づくりの担い手への「森林管理の認識」と、製材所や加工所など一加工・流通過程の管理認証の二種。これ

界自然保護基金ジャパンの自然保護室次長は「日本の林業家にとつて、環境方針や具体策を計

### 【FSC認証の10のポイント】

- ①法律とFSCの原則の順守
- ②保有権などが明確
- ③先住民の権利の尊重
- ④林業従事者と地域の社会的・経済的向上
- ⑤森林のもたらす便益の利用
- ⑥環境への影響
- ⑦適切な管理計画
- ⑧モニタリングと評価の実施
- ⑨保護価値の高い森林の保存
- ⑩天然林保全につながる植林